

# 那賀町議会から お知らせ



那賀町議会：ホームページアドレス  
http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/gikai/

## 令和5年9月定例会議

### 一般質問から

主な質問とこれに対する長や関係課等の  
答弁の要旨は次のとおりです。

一般質問をすぐに視聴したい方は、議会中継  
又は議会後に放送される録画放送を御覧ください。



### 野口穂議員

#### 助蔭地区の不測事態対処について

Q 問 平成26年、台風豪雨により助大橋の通行が遮断されたことから、助蔭地区住民から集落の孤立を防ぐ対策を求める陳情が出されたが、その後、どのような検討がなされたのか。

#### 要克孝木頭支所長

A 迂回路としての林道開設の要望は承知しており、内閣府の地域再生計画にも入っているが、実現しても長期間の工事となり短期的な孤立対策とはならないことから、ヘリポートなどの整備も含めて色々な方策を検討したい。

#### 被害削減のため鳥獣害対策に新たな方策の考察をする事について

Q 問 有害鳥獣による被害が増加している。防護柵による被害軽減や猟友会による駆除を行っているが、会員の高齢化も進んでいる。新たな駆除策の検討はしているか。また、被害金額算定要領はどのように規定されているのか。

#### 岡久譲二農業振興課長

A 今年度に入り、サルの生息域調査を踏まえた行動圏域調査を実施することで大型捕獲檻による捕獲事業に取り組んでいる。また、被害金額の算定については、徳島県農作物鳥獣被害調査実施要領に基づいて報告内容等被害状況により算定している。

#### 木頭地区の公共交通対策について

Q 問 那賀町地域公共交通計画において、徳島バス

南部の谷山線及び日和田・北川線の存廃検討が記載されている。今後の行程表等、特に地域住民への説明及び意見聴取の予定を伺う。

#### 湯浅正恵住民生課長

A 平成6年10月からの廃止が計画されている。昨年のアンケートでの意見を参考に役場内で代替交通の案を作ってから、年内には、地域での意見交換会を実施し、住民の意見や要望を反映する予定である。



### 田村信幸議員

#### 「那賀町を愛する心」少年の主張弁論大会（中学生の部）の方向性について

Q 本年2月小学生の部が開催、出場者全員が夏休業日中に県外でのリーダー研修が実施されたが、成果はいかに。また、来年2月には4年ぶりに中学生の部が開催されると思うが、本弁論大会の意義及び表彰規定の今後の方向性を伺う。

#### 高岡勇人教育次長

A 7月31日から8月2日まで、14名が参加し、兵庫、大阪での研修を実施した。研修レポートを報告書として取りまとめている。中学生の語学研修は、上位5名の表彰者を対象に実施する予定であり、研修地は学校とも相談しながら、国外に拘らず検討したい。

#### 岡川雅裕教育長

A 那賀町をふるさととして忘れないためにも、自発的に弁論大会に参加していただきたい。副賞に関しては、安全安心を考慮しながら12月までに決定し、生徒にお知らせする予定である。

#### 那賀町と博報堂プロダクツとの連携協定後の状況と今後の展開について

Q 昨年10月地域活性化包括連携協定を両者で結んでいるが、現況は。また最近同社社員に「地域活性化起業人」を委嘱したとのことだが、どのような施策につながるのか。起業人に対し、どのような働きを期待しているのか。

#### 三好俊明みらいデジタル課長

A 連携協定の内容に沿い、8項目の地域課題を抽出し、それらの課題解決策のためのタスクフォースを設置している。また、地域活性化起業人には、その豊富な業務経験と人脈を生かした課題解決事業を推進していただいている。

#### 橋本浩志町長

A 他の市町村も活用しており、那賀町でも移住交流や観光振興など、民間の持つ幅広い知識や人脈を那賀町行政に役立て、活性化を図りたい。

#### 「あくあ川ロベース」の活用及び今後の運営方針について

Q 6月議会にも質問し、ハード・ソフト面での提言をした。7月末の「スマート回廊地域創造事業推進委員会」での協議を受けて方向性を決めるとのことだが

だが、今後の展開はいかに。本格的な開設時期及び運営主体となり得る候補の見直しはどうか。

#### 下内孝浩にぎわい推進課長

A 本年度の運用に関しては、利用実態や状況を勘案しながら実施に向けて検討していくということ協力を進めており、運営形態については今後、幅広く柔軟的に活用できるような団体の設立などを検討している。時期についてはもう少ししばらく時間をいただき、推進委員会での検討を進めていく。

#### 橋本浩志町長

A 試験運用を行い、課題等を洗い出し、県企業局と連携し、早期の本格運用を目指したい。



### 前田貞好議員

#### 「那賀町をひとつ」にする施策について

Q 問 5町村が合併し18年が経過したが、この間那賀町を一つにするための施策はあったのか。那賀町の新たな伝統や文化を作ること必要と考えるが、その一つとして「那賀町の歌」を作ってはどうか。

#### 葛木幸男総務課長

A 那賀町は広い地域であり、地域ごとの課題に対応した取り組みや施策は、「人口減少・少子高齢化」に歯止めをかけるそれぞれの強みを生かした情報を発信し、活力あるまちづくりを進めており、これをまとめて那賀町を一つにした取組みと考えて進めている。那賀町の歌については、「ゆずばあちゃんの歌」もあるが、あらためて提案いただいたので今後の検討課題としていきたい。

#### 高校生議会の議員に応えるために

Q 問 高校生議員による一般質問、「人口が減り、歴史や伝統が消える前に記録し、インターネットに掲載、利便性を図ってはどうか」に対する具体的な施策はあるか。また、農業者個人へのドローン購入補助割合及び小規模農家を守る方策とは。

#### 高岡勇人教育次長

A 町の歴史や地域の文化、伝統の資料には、旧町村誌がある。インターネットへの投稿には、データ容量が膨大であり、掲載作業に多くの手間が必要であるため、町のホームページへの掲載を検討したい。図書館、図書室の町誌を閲覧願いたい。

#### 岡久譲二農業振興課長

A 現在、ドローン等労働負担低減に伴う国補事業としては、補助率30%の農地利用効率化等支援事業が活用されている。また、農業生産団体を中心とした協議組織が連携と情報の共有化を図ることにより、労働力の支援等の提供を行うと共に農業持続化に資する補助支援の拡充等も検討していく。

#### 「那賀町の吊り橋50選」を財産として維持することについて

Q 問 那賀町にあるつり橋の数や使用可能年限、名称等を伺う。また観光利用の可能性や今後の維持管理方針をどのように考えているのか。

上田善浩建設課長

A 町道として管理している吊り橋は、車道橋が1橋、人道橋が28橋あり、人道橋のうち老朽化等で通行止めとなっている吊り橋が現在3橋ある。使用可能年限については、架設後50年以上が経っており、更新されてきたものもあるため様々である。今後の吊り橋の維持管理方針としては、費用対効果を検証し更新すべきものの以外の吊り橋については廃止する方向で検討したい。

下内にぎわい推進課長

A 現在ある吊り橋については観光用としての施設管理は考慮していないが、今後その施設について利用可能であるものと考えられる場合には、関係部所と協議しながら運用や維持について検討していきたい。

ケーブルテレビの番組「フォーカスなかに」について

Q 問 視聴者からの評判はどうか。また、事業実施に至った経緯、今後の方針、推進計画や目標について伺う。

武田卓士ケーブルテレビ課長

A 好評をいただいている。経緯は、以前から番組の充実の要望を受けていた。今年度、撮影スタッフが強化された。目標は、町内ならではの話題を速やかに放送し、多くの方に関心を持って見てもらえるようにすることである。



吉田行雄議員

チップ工場について

Q 問 チップ工場設立により町を活性化するため、原材料及び人材の確保が必要であるが、広大な町有林を持つ町として、どのようにバックアップするつもりなのか。

橋本浩志町長

A チップ工場の原料となる木材生産、搬出、運搬のための人材育成を那賀町林業テクノスクールや県のアカデミーとも連携し実施するほか、木材の集荷体制支援についてもしっかりと行っており、生産量の拡大を図りたい。

日野谷診療所ほか、現建屋について

Q 問 相生包括ケアセンターは、平成9年に建築され、かなり老朽化している。この施設は健康や医療、福祉に関する各セクションの集合体であり来場者も多いため、外観にも手を加えてほしい。

堤貴昭へき地医療戦略室長

A 平成10年に開所された当該施設は外壁の汚れも目立ち、ひび割れ補修など大規模な改修が必要な時期が来ている。適当な補助金がないかなどを探すととも

に、町財政部局にも相談をかけて今後の方策を検討していきたい。



新居敏弘議員

マイナンバーカード保険証について

Q 那賀町における取得者数、マイナ保険証の登録数は、資格確認書の交付はどうなのか。マイナ保険証のトラブル続出や障害者等はマイナンバー取得困難など、マイナ保険証の一本化は問題がある。国に対し、来年初予定の保険証廃止を延期・撤回するよう求める考えはないか。

西村俊克税務保険課長

A マイナンバーカード取得者数は8月27日現在5,415名、マイナ保険証の登録者数は把握できないため不明である。国保被保険者でマイナ保険証を持たない方に交付する資格確認書は、プッシュ型交付となる見込みである。

橋本浩志町長

A 様々な問題が出ていることは承知しているが、国に於いても再度検証を進めるとのことであるので、将来的な効率化に向けての議論も含めて、町としては他の市町村とも情報収集するなど検討して参りたい。

国民健康保険の一部負担金減免について

Q 国保法第44条に一部負担金の減免が規定されているが、那賀町での減免の状況は。また、減免の対象となる基準はどうなっているのか。

西村俊克税務保険課長

A 町の条例では減免規定を設けておらず、減免の対象となる基準も定めていない。一部負担金を減免することは保険税の負担が増えることにも繋がるため、他の自治体の事例を参考に今後も慎重に検討したい。

看護師不足等に対する取組について

Q 問 看護師等不足解消のための取組みは、看護助手の正規雇用や給与体系の見直し検討、また医療従事者住宅の入居要件を緩和してはどうか。医療従事者増のためのもってこい奨学金制度の現状はどうなっているか。

堤貴昭へき地医療戦略室長

A 看護師募集については、広報活動や県看護協会と共催した看護師の魅力を伝える企画などを実施しているが、今後も地道に取り組んでいきたい。医療従事者住宅の入居要件の緩和については、12月議会で条例改正を検討したい。

萬木幸男総務課長

A 給与の見直しについては、会計年度任用職員の処遇改善として令和4年度から改正しているが、職種ごとの見直しは格差が発生することから、全体で検討する必要があり、今後については状況により見直しを検討していきたい。

高岡勇人教育次長

A 看護師を養成する高等学校も貸与の対象として拡充している。那賀町内の医療機関に勤務された場合は、翌年度の奨学金返還金を町が奨学生に代わり返還する制度にも取り組んでいる。



柏木岳議員

メディアアドウ社との提携は、彼らの本業を生かす内容にすることについて

Q 問 民間ならではの地域貢献、まちづくりを進めているメディアアドウ社であるが、本業の電子書籍取次業として提携してもらい、都市部との生活格差を埋めるため、那賀町の図書館・図書室に電子図書機能を付加してはどうか。

岡川雅裕教育長

A 電子図書館の優位性は理解しているものの、今少し情報収集を行い検討した後、他団体や企業と話し合いを実施したい。

橋本浩志町長

A 電子図書館導入についての那賀町におけるメリットやデメリット、経費面など検討して参りたい。

驚敷堤防工事における用地補償は「完了」と呼べるのかについて

Q 問 買収の対象が土地の一部の場合や、収容対象外だが堤防建設のため立ち退く必要があった場合などの事例があったが、どのように対応したのか。また工事完了後のフォローはできているか。

根木屋彰文防災課長

A 用地補償については、県において制度に則って実施された。町としては、対象となる方と個別相談や要望を丁寧に聞き取る中で、町内での再建をさせていただきたいという方針のもと、できる限りその意向に添えるように調整をしてきた。

橋本浩志町長

A 堤防工事については、県の工事であり補償等も県で行っており、適切に対応していると聞いているが、個別案件について再度聞き取りし、問題があるようなら関係機関と連携し検討して参りたい。

病児保育所は設置しないままなのかについて

Q 問 那賀町における病児・病後児保育は、近隣市町村との連携は地理的な面から現実的でなく、町内で行政が実施すべきと考える。担い手不足の問題から設置が困難だったと推察するが、経緯及び今後の方向性は。

藤長歩すこやか子育て課長

A 病児保育には、保育士及び看護師の確保、施設の設備等の問題があり、ハードルが高い。本町では、ファミサポへの委託という方式が最も現実的であると思われる。今後、次年度からの実施を目指し、ファミ

サポとの協議を進めたい。

**橋本町長にとって、議会はどつあつてほしいのかについて**

Q 問 日本の地方政治は首長が絶大な権力を持つが、片山善博元鳥取県知事はその就任あいさつで、「県民の意思と違えば、行政の提出案件にも修正を、行政が出さなくても県民の意向により議員発議で条例制定を」と述べた。橋本町長が那賀町議会に求めるものは。

**橋本浩志町長**

A 議会であっても行政であっても、一定のルールの元で、諸先輩方が築き上げてきていただいたもの、それを次に引き継いでいって、少しずつ時代に合った改革なりを加えていくというのが、行政であり議会であると感じている。



**重陵加議員**

**集落の孤立を防ぐ生活道・迂回路の平時のメンテナンスについて**

Q 問 住民の生活道である国道193号崩壊時に利用した迂回路や、国道195号難所の白瀬区間の迂回路となりうる林道南川線また国道の消えかけた中央線などは平時より防災・事故予防の観点から保守を行い、緊急時に備えるべきと考えるが、仕組みづくりは可能か。

**高岡栄作林業振興課長**

A 迂回路を含む林道の維持管理については、町職員や地域住民の方から道路状況の情報提供を受けながら実施している。今後に必要な予算確保に努めたい。

**上田善浩建設課長**

A 国道を管理する徳島県に対して災害リスクのある箇所改良要望を行うとともに、迂回路となる重要な路線の維持管理については、メンテナンスの頻度とコスト面のバランスも考慮しながら予算の範囲内で取り組みたい。しかしながら、迂回路となる路網の状況や道路本体の構造的な問題があることもご理解いただきたい。

**令和6年度以降の保育料無償化・おむつ支給及び給食費無償化の事業について**

Q 問 物価高騰対策として現在実施されている保育料無料化、おむつ支給及び給食費無償化は、令和5年3月で終了するが、4月以降も継続し長期的な施策とする考えはないか。

**藤長歩すこやか子育て課長**

A 2事業とも保護者からの評判も良く、継続したい気持ちはあるが、全体的な公平性にも心を配る必要がある。次年度以降については、各種補助金やふるさと納税、ふるさと基金など、財源確保に努めながら、財政部局と協議したい。

**高岡勇人教育次長**

A 令和6年度以降の学校給食無償化は、現時点では単独事業による実施予定はない。施設等のスリム化、合理化を計った上で、財政部局とも協議し、無償化について協議、検討したい。

**こども園における13時までの土曜保育について**

Q 問 土曜保育制度が利用しづらいため、就労の可能性や幅を狭くしているのではないか。土曜保育における就労証明書の提出を求めず、予約制にしてはどうか。また保育理由の緩和を検討しては。

**藤長歩すこやか子育て課長**

A 土曜保育には、土曜日の就労証明が必要である。現在、土曜の午前中に限って対応しているが、時間を延長したり、就労していない方まで認めるのは、保育士の大幅な増員が必要となり、人員確保と財政負担の両面で非常に難しい。

**橋本浩志町長**

A 保育士の募集を引き続き実施し、人員が充足でき、現場の準備が整うよう努力していく。

**那賀町の医療政策について**

Q 問 木頭地区の民間調剤薬局が撤退した。地域住民の中では「北川診療所、木頭診療所は今後も継続されるのか」という不安が拡大しているが、現在の町立医療機関は維持されるのか。また、現在は町立医療機関それぞれが各自主導、運営しているが、今後一つのチームとして連携してはどうか。

**堤貴昭へき地医療戦略室長**

A 医療体制については、医療資源が乏しく厳しい状況ではあるが、当面はできる限り現状を維持できるように努力していきたい。公的医療機関同士の連携については、医師の派遣やワクチン接種などの連携を図っているが、今後も進めていきたい。